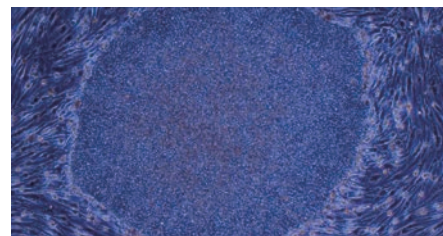




京都大学 iPS細胞研究所

活動指針

iPS細胞研究所=Center for iPS Cell Research and Application (略称 CiRA:サイラ)は、学内の研究所や附属病院等と連携しながらiPS細胞の可能性を追求し、基礎研究に留まらず応用研究まで推進することにより、再生医療や創薬の実現に貢献することを目指しています。



ヒトiPS細胞

団体の特徴

iPS細胞研究所は、世界初のiPS細胞に特化した先駆的な中核研究機関です。2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授が所長を務めており、より有効な治療法を心待ちにしている患者さんのもとにiPS細胞技術を届けることを目的としています。また、当研究所は、他の研究機関・医療機関のためのインフラとしての役割も担っています。現在は、iPS細胞技術の知的財産を確保しておりますが、非営利の研究機関には無償でライセンスしております。また、様々な医療機関で使っていただくための再生医療用のiPS細胞を予め作製・備蓄しています。

主な活動内容

以下の5つの研究部門で、iPS細胞の医療応用に向けた研究を推進しています。

1. 生命科学の可能性を広げる: **未来生命科学開拓部門**
2. iPS細胞を増やし、様々な細胞に変える方法を探る: **増殖分化機構研究部門**
3. iPS細胞で病気の原因を探り、より良い治療に活かす: **臨床応用研究部門**
4. iPS細胞を使った臨床研究に必要な仕組みを確立する: **基盤技術研究部門**
5. iPS細胞の倫理的、社会的、法的課題に取り組む: **上廣倫理研究部門**

ご寄付いただいた場合

◆寄付金は寄附金控除の対象になります。

- ・ 毎年12月頃、寄付金の領収書を郵送します。
- 寄附金控除を受けるためには、確定申告の際に寄付金の領収書を添付してください。

◆活動内容を報告します。

- ・ ニュースレター(季刊)を郵送またはEメールでお届けします。

◆所長名での感謝状をお届けします。

- ・ 山中伸弥所長の名前で、感謝状をお届けします。

皆様のご寄付は、1日も早い医療応用のために大切に活用させていただきます。

団体連絡先

京都大学 iPS細胞研究所

〒606-8507 京都府京都市左京区聖護院川原町53
TEL:075-366-7152 FAX:075-366-7034
Mail:ips-kikin@cira.kyoto-u.ac.jp URL:https://www.cira.kyoto-u.ac.jp

ご支援でできること

iPS細胞は、以下のような用途に活用できる可能性があります。

【再生医療】

病気や怪我の治療に必要な細胞や組織を作り出して再生医療に活用できる可能性があります。
例) 糖尿病・パーキンソン病・血液疾患など

【病気の原因解明・創薬】

病気の性質を持った細胞を患者さんの皮膚や血液から作製し、病気の原因を調べる研究や、薬の候補物質を与えて薬の開発に活かす研究が進んでいます。
例) 筋萎縮性側索硬化症(ALS)、進行性骨化性線維異形成症(FOP)など



所長:山中伸弥教授

当研究所は、1日も早いiPS細胞の医療応用を目指して、研究活動を行っています。

具体的には、以下の4つの目標を、2030年までに全て達成することを目標としています。

2030年までの目標

- ・ iPS細胞ストックを柱とした再生医療の普及
- ・ iPS細胞による個別化医療の実現と難病の創薬
- ・ iPS細胞を利用した新たな生命科学と医療の開拓
- ・ 日本最高レベルの研究支援体制と研究環境の整備

寄付金の使途

●医療応用や革新的研究の支援

再生医療の普及を目指すiPS細胞ストックプロジェクトや、創薬研究、革新的な研究、優れた研究などを支援します。

●優秀な研究者、研究支援者の確保

研究者のほか、知財・契約・広報などの優秀な研究支援スタッフを安定雇用します。

●知的財産(特許)の確保と維持

iPS細胞技術に関する特許を確保し、非営利研究機関には無償で提供しています。

●研究支援体制、研究環境改善の取組み、情報発信・普及活動

若手の教育や人材育成、設備の維持、リスク管理、広報・基金活動などの財源として活用します。

iPS細胞技術は、根本的な治療法のない難病や怪我で苦しんでいる世界中の患者さんにより良い治療法を提供できる可能性のある、日本発の革新的な技術です。

この技術が患者さんのもとに届き、より良い医療を実現するために、ぜひあなたのお力をお貸しいただければ幸いです。



研究の様子



再生医療用の細胞を調製する施設